

## ガナリー・キャンプの検証

高橋 伸\*           川向 妙子\*\*  
山崎 律子\*\*\*       高橋 和敏\*\*\*

## An Examination of Gunnery Camp

Shin, TAKAHASHI\*           Taeko, KAWAMUKAI\*\*  
Ritsuko, YAMAZAKI\*\*\*       Kazutoshi, TAKAHASHI\*\*\*

## Abstract

Gunnery Camp is said to be the first model of school camp that has been systematically organized and operated. Even though this camp has been widely quoted in various literatures, it has been also found that there still remain many things unclear as to this school camp, such as the period that this camp was held and the place of it. The purpose of this article is therefore to examine and disclose these unfound aspects of this experimental camp. For this purpose, the comparative analysis of relevant literatures was made and the field trip to interview the people who were involved in this camp program was also conducted from September 18 to 24, 1994.

The major findings are as follows:

- (1) In 1850, Frederick William Gunn founded The Gunnery in Washington, Connecticut. The school has been still existed with its tradition and high reputation. It was also found that both the library and the historical museum had been constructed in this town in memory of Mr. and Mrs. Gunn.
- (2) The Gunnery Camp was put into the program three times, i.e., in 1861, 1863 and 1865 at Welches Point in Milford. Milford is located some 40 miles south of Washington facing Long Island Sound.
- (3) After having been moved to Lake Waramaug in 1886, the Camp was offered until 1879, and suspended later, however, due to the change of the school calendar. The Camp's tradition has still been transmitted into various form of hiking, sports activities and so forth.
- (4) F.W. Gunn was an educator of enthusiasm and abolitionist. He was also a real outdoorsman. All these personal and behavioral characteristics seem to have led him to this experimental project, the Gunnery Camp.

This study is believed to be informative and instructive to those interested in the study of the history of camping and those aiming at becoming a camp leader.

KEYWORDS : Gunnery Camp, Frederick William Gunn,  
Organized Camp, History of Camping, The Gunnery

\* 国際基督教大学 (International Christian University)

\*\* 東海大学 (Tokai University)

\*\*\* 余暇問題研究所 (Japanese Institute of Leisure Science and Education)

受理 : 1995年4月22日

## はじめに

ガンナリー・キャンプ (Gunnery Camp)<sup>(註1)</sup> は、アメリカ合衆国において、1861年に初めて実施された組織キャンプ (Organized Camp) — 精密には組織的な学校キャンプ — として、現在までのところ多くの専門家によって認知されている。キャンプに関する内外の多くの文献も、その歴史的記述の中に、ガンナリー・キャンプが最初の組織キャンプとして、その説明がなされていることからみても妥当であろう。

しかしながら、ガンナリー・キャンプが果たして最初の組織キャンプであったかどうかは、現在でも議論のあるところである。<sup>(註2)</sup> それは組織キャンプをいかに定義づけるかによって異なってくるものであり、今後の研究にかかっている。<sup>(註3)</sup> 本検証は、このような最初のキャンプがいずれであるかを追求しようとするものではない。ガンナリー・キャンプそのものに焦点を当て、その当時の状況を、できるだけ正確に把握しようとするものである。

現在わが国においても、人々の自然志向の高まりから個人や家族のキャンプはもとより、諸団体・諸機関による組織キャンプは、年毎にその普及を遂げてきた。その様式も多様化してきたことは周知のことである。

このような状況の中で、現代の社会生活に合致するキャンプの在り方や、人々とくに青少年のニーズを満たすキャンプの方向性を模索し、その将来のあるべき姿を見出すことは、極めて重要な課題となる。そのためには現状の調査・分析・評価も欠くべからざる方法ではあるが、とくに変化の激しい現代にあっては、過去に遡ってその事実を振り返り、その中に脈々と流れる思想を鳥瞰し、先人達が築き上げてきた伝統や歴史から学ぶことも、より重要であるとの認識をもつものである。

以上の観点から約130年前に実施されたとするガンナリー・キャンプに着目し、その当時の状況をかいま見ようとするのが、本検証の動機といえよう。先ず現在まで出版されている国内のキャンプ関係書の中で、歴史的記述のある文献を検討し、続いてアメリカにおける同様な文献検討を行った。<sup>(註4)</sup>

各文献は、それぞれの視点で解説されている。その中に共通した記述も多く見られたが、とくに学校に関する記述や実施場所に関する記述に相違があった。文

献のみではその事実を確認できず、多くの疑問が残った。

したがって本検証の目的は、その事実を確認すると共に、ガンナリー・キャンプの実像をできる限り詳細に見極めようとするにある。

もちろんそのためには、第一次資料の発掘が必要となる。現地調査も必要となることから、それらを分担し、その解明に当たった。現地調査及び関係者への面接は、1994年9月18日から9月21日まで実施した。

本検証による結果は、キャンプ関係者はもとより、キャンプの歴史的研究の有志者にとって参考になると同時に、ガンナリー・キャンプに対する正しい理解を得る手掛かりになるものと確信するところである。もちろん短期間の現地調査日程では、限られた範囲の資料収集と面接であり、すべてが検証されるには至らなかった。しかしながら、当時とは異なった環境であるにせよ、現地を踏査することによって、当時の状況を彷彿させ、調査者の心に刻まれることも数多くあった。

## 1. 学校の所在地

先ずガンナリー・キャンプの母体となる F.W.Gunn が創設した学校はどこにあるかという疑問を解明することからスタートした。多くの文献は、コネティカット州ワシントンと記述してある。ある文献には、ガネリーと記述してあった。果たしてワシントンあるいはガネリーがコネティカット州にあるのかどうかを、地図上で探索した。その結果、Washington, Connecticut は、アメリカ北東部のニューイングランド地方、ロングアイランド湾に面したコネティカット州<sup>(註5)</sup>の西側内陸部で、ニューヘブン (New Haven) から約40マイルのところにあった。ガネリーという町は現存しないこともわかった。

このワシントンは、Town of Washingtonとして、面積100平方キロ、人口約3,900の小さな町である。標高は720フィートであり、林間の丘陵地に47号線が走り、それに沿って家が点在している。落ち着いた静かな町という印象をもった。

## 2. F.W. Gunnとその学校

Frederick William Gunn は、1816年生まれで、

彼が44歳のときに、妻のAbigail Brinsmade Gunnと共に、“The Gunnery”を設立した。1850年であった。<sup>(註6)</sup> この学校は現在も、設立の地コネティカット州ワシントンに、140年の伝統を残しながら、200エーカーのキャンパスと220人の生徒を有する格式ある高等学校として運営されている。

多くの文献には、ガナリー・スクールとあるが、正式にはThe Gunneryであることが確認された。

F.W.Gunnは設立以来1881年に65歳で死去するまで校長を勤めていた。現在の校長はSusan G. Graham女史で、彼女の言によれば、F.W. Gunnは立派な教育者であり、奴隷制度廃止論者であり、かつアウトドアマンであったという。

またGraham校長は、念のためにということで、学校の名称がThe Gunneryであり、一見銃砲に関係があるよう誤解されやすいが、全く関係がないことを付け加えた。彼の学校教育に対する考え方は次の言葉に現されている。すなわち次のような夢を持っていた。

“I have in my mind an ideal of a school • • composed about equally of boys and girls. The school is sitated in the country ; the buildings are picturesque and attractive ; the atmosphere is warm and genial. In this of which I dream, there is cooperation, there is helpfulness, and, so far as the laws of Nature will permit, equality.”<sup>(註)</sup>

また彼は、知的挑戦 (Intellectual challenge)、精神力 (Moral courage)、身体的厳しさ (Physical rigor)、



写真1 The GunneryのAdministration Building

性格形成 (Character) を正方形の一辺と考え、その教育理想としたという。<sup>(註)</sup>

設立当初のThe Gunneryは、全寮制の学校として、12歳以上の少年10人であったが、やがて生徒数も増加し、10年後には70人の寮生と多数の通学生がいるようになった。<sup>(註)</sup> このことから、Gunn夫妻が生徒を家庭的な雰囲気、よい自然環境の中で、前記の教育理想を追求し、生徒の教育に情熱を燃やしていたといえよう。

同窓生の記述によれば、Gunnがいかにかにスポーツや野外活動にも積極的に生徒に働き掛けていたかがよく理解できる。すなわち夏には野球、冬にはフットボールなどを、さまざまに工夫しながら楽しんだという。また土曜日には近くにハイキングをしたり、金曜日からは一泊旅行をワラマウグ湖やバンタム湖 (Bantam Lake — ワシントンから北東5マイル) にでかけ、ブラックバス釣りを楽しんだという。また冬には、丘の傾斜を利用した縄遊びやハンティングも楽しんだようである。とくにハンティングの場合には生徒にも猟銃をもたせ、その安全意識を高めさせたことも思い出として述べてある。<sup>(註)</sup>

以上のようなGunnの教育は現在も引き継がれ、落ち着いたキャンパスと教育陣によって、大学受験校の色彩を強めると同時に、生徒の生活指導、スポーツ活動にも力をいれている。校長は、現在在籍220人の生徒の中には、日本人3人をはじめ多くの外国人生徒も在籍し、国際的な学校としても自負していた。かつて実施していたキャンプもその後は秋の一日ハイキングになり、現在そのスピリットはチームスポーツに生かされていると述べていた。

また、Gunn夫妻は彼等自身の学校のみならず、ワシントンの地域にも大きな貢献があったとみられる。その証拠に、Gunn夫妻を記念した図書館 (Gunn Memorial Library) と博物館 (Gunn Memorial Historical Museum) が町のほぼ中心地にあった。(写真2参照)

図書館玄関の右にはGunn夫妻のレリーフがあり、左側には、その記念の辞が彫刻されていた。下記にみられる賛辞である。

“FREDERICK WILLIAM GUNN AND  
ABIGAIL BRINSMADE, HIS WIFE WERE  
FOR MANY YEARS TEACHERS BY



写真2 F.W.Gunn夫妻の記念図書館正面玄関

PRECEPT AND EXAMPLE OF TRUTH  
HONOR AND LOVING-KINDNESS.  
THEIR INFLUENCE WAS ENNOBLING  
AND FAR REACHING EARNEST AND  
UNSELFISH IN THEIR KIVES. THEY  
ARE HELD IN BLESSED MEMORY ”

### 3. キャンプの実施場所

1861年に実施したキャンプは、国内文献では種々異なった記述が多いが、場所を特定しているのは、E. Bells 及び The Master of the Gunnery であった。それによると “ The 40-mile journey to Welches Point on Long Island Sound・・・” とある。<sup>4) 16)</sup> これは地図上でも現存する。(地図参照)

なぜ国内文献の記述が異なるのかを検討した結果、国内文献の殆どが Mitchell A.V. らの引用であるためであることがわかった。すなわち “・・・for a gypsy trip to Milford on the Sound, four miles a way・・・”<sup>11)</sup> とあったからと推測される。<sup>(註7)</sup>

したがって正しくは「ワシントンから40マイルはなれたロングアイランド湾に面した町ミルフォード<sup>(註8)</sup>のウェルチス岬で・・・」ということになる。この Welches Point は、踏査の結果、現在は住宅地となっており、道路の名前が残っているのみである。しかしビーチは半円状に約3キロにわたって連なり、美しい海岸線を形成している。ビーチのすぐ奥には日本でいう建て売り住宅のように、同じような住宅が建ち並び、ビーチはプライベート・ビーチとなっている。(写真3参照) この場所でのキャンプは、1861年、1863年及び1865年



写真3 現在のWelches Point

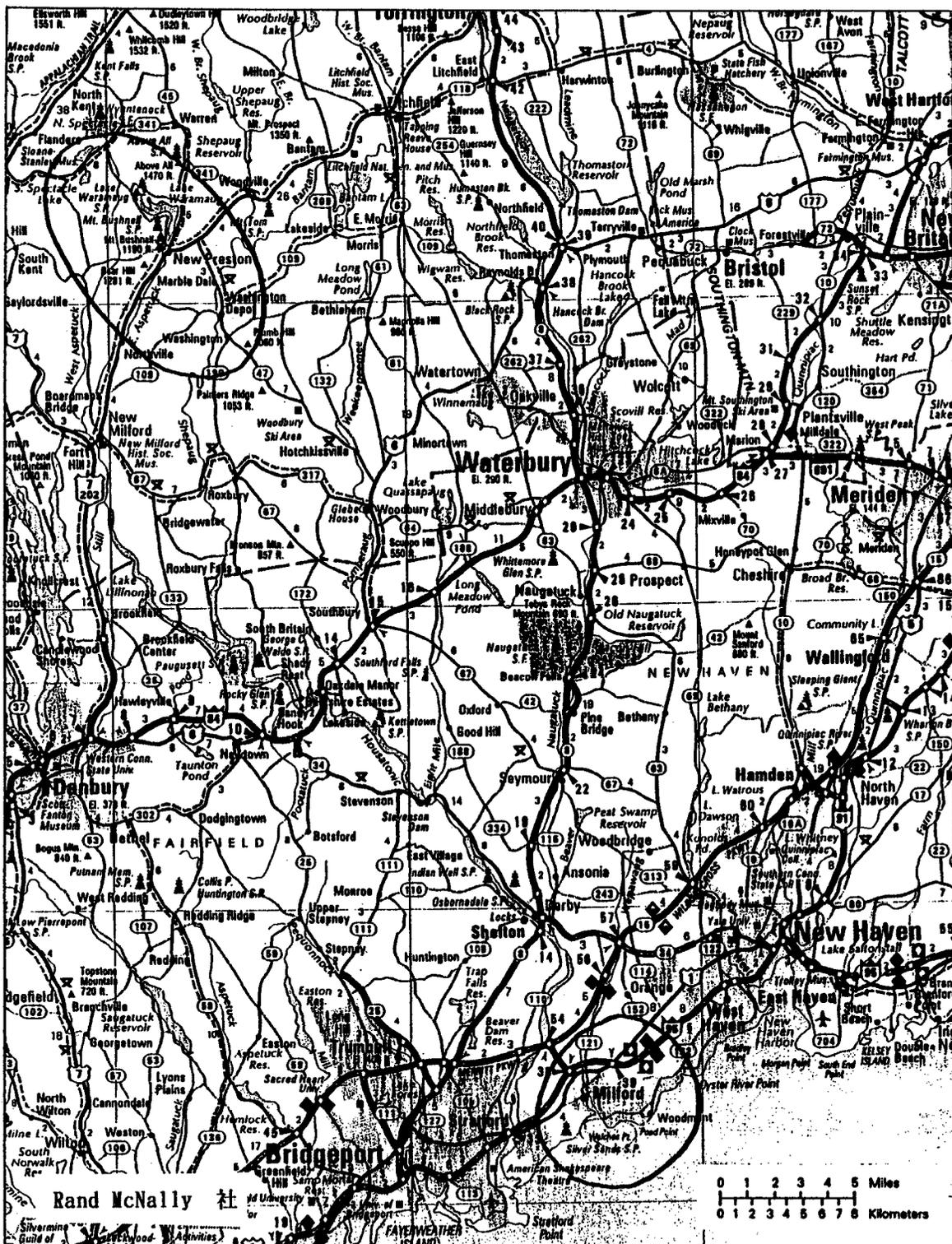
の3回実施したことは確実である。<sup>16)</sup> これらのキャンプを “Camp Comfort” という名称を用いていた。

その後キャンプはキャンプ地をワシントンから約7マイルはなれたワラマウグ湖のポイント・ビューティフルに移したとなっている。この名称もこのときから “Gunnery Camp” となり、このキャンプは1879年まで続いている。確かに Washington から北西4マイル(直線距離)のところに、Lake Waramaug がある。この湖は全長約2マイル、幅の広いところで約1/2マイルのくの字に曲がった湖で、現在は州立公園として一周道路がある。(写真4参照) 水の綺麗な小じんまりとした落ち着いた風情を止めている湖との印象を得た。

一部の文献にはワラモージ湖とあるが、Lake Waramaug はワラマウグと発音するのが正しいことが確認され、これは Algonquin のインディアン酋長の名前とのことである。<sup>10)</sup> このワラマウグ湖でのキャンプは、Point Beautiful で行われたとあるが、特定



写真4 現在のLake Waramaug



地図 コネティカット州西部周辺 (ワシントン、ミルフォード、ワラマウグ湖の位置関係)

するに至らなかった。そして最後のキャンプは、Hawes' Point で実施されたとある。<sup>17)</sup>

まとめると、「1861, 1863及び1865年のキャンプは、学校の所在地から南へ40マイル程のロングアイランド湾に面した町ミルフォードのウエルチス岬のビーチで行われた。そして翌年からは学校から北西4～5マイルのところにあるワラマウグ湖のビューティフル岬で1878年まで、1879年の最後のキャンプはハウズ岬で行われた」ということになる。

#### 4. 1861年キャンプ実施の動機

なぜ Gunn 夫妻がミルフォードのウエルチス・ポイントにキャンプをしたか、その動機については、今までの文献では二つ記述されている。第一は南北戦争の影響が生徒に影響を及ぼし、行軍や野宿への生徒の憧れを満たしたというものである。第二は The Gunnery の学校カリキュラムであったから、その一環として実施したという説である。

第一の説は、確かに影響を与えているものと、推測される。すなわち1861年に実施されたキャンプは、1861年8月末に行われたとある。<sup>5)</sup> 南北戦争は1861年4月12日に南軍の攻撃に始まり、4年間続き、1865年4月9日、グラント将軍に追われたリー将軍の軍隊がバージニア州アポマトックスで降伏し、事実上の戦争終結となった。キャンプをした時期は、南北戦争が勃発して四か月くらい経てからのことであり、戦況は殆どが北軍の南部進攻であったが、1861年7月21日にはブル・ランで北軍が惨敗して、にわかには大軍の動員が連邦で行われた時とほぼ同じである。したがって生徒も何らかの影響を受けていたことは間違いないと考えられる。しかしそれがキャンプ実施の直接動機とはいえない。

第二の説については、学校のカリキュラムの一環と考えるより、Gunnの教育方針の一つであり、彼自身が自然志向が強かったことから、野外活動の価値を認めていたからと考えるほうが妥当であろう。すなわち、前記したように、ふだんの学校生活の中に、さまざまなスポーツ活動を取り入れており、ハイキングやオーバーナイトの旅行などによって、身体的訓練とともに強い性格形成を、このような野外生活体験を通して生徒に求めようとしていたのである。

このような状況の中で、海に面していないワシントンでは、海への憧れと共に、より長期に亘った野外生活体験を求めようとして、ウエルチス・ポイントへのキャンプに踏み切ったことと推測できる。

#### 5. 1861年キャンプの概要

1861年のキャンプはどのように実施されたかについては、同窓生がその記憶をよみがえらせている。

キャンプは、8月末の2週間であった。ワシントンからミルフォードのウエルチス・ポイントまでは2日間かかったというから、往復4日費やしたとすれば、ウエルチス・ポイントには10日間いたことになる。

そのルートは、ワシントンの西を流れているシェパウグ川 (Shepaug) 沿いの道を南下し、その川はやがてハウサトニック川 (Hausatonic) となり、その川沿いに進んだという。ハウサトニック川はミルフォードの西3マイルのところでもロングアイランド湾に注いでいる。彼等はこの旅に二日間かけ、二日目に海岸に着いたという。

同窓生たちは、このキャンプを“Gypsying”と呼んでいた。このキャンプは全校生徒を対象にしたが、卒業生やガールフレンドたちも参加したというから、女性も参加したことが理解できた。女性は従軍女商人 (vivan-diere) のような服装をしていたという。

もちろん GUNN 夫妻がキャンプをリードしていたが、全体で60人を越えるパーティーとなり、ロバ2頭とワゴンに荷物を積んでの大旅行になった。

ウエルチス・ポイントでの生活は、大きなテントを張り、波打ち際のスポーツ、夕べの歌、夜には芝生でのダンス、ボール・ゲームなどを楽しみ、月の光にセンチメンタルを感じたという。またこの海岸には彼等の他にキャンプをするものもなく、キャンプファイヤーを囲んでの催しは感動的であったという。<sup>18)</sup>

帰路についての記述は見当たらなかった。

## まとめ

本検証によって得られた知見の概要をまとめると、次のようになる。

- 1) F. W. Gunn が創設した学校の所在地は、コネティカット州ワシントンであり、現在も “ The Gunnery ” として存在している。またワシントンの町には、F. W. Gunn夫妻を記念した図書館と歴史博物館がある。
- 2) 1861年、1863年及び1865年のキャンプは、ワシントンから40マイル離れたミルフォードのロングアイランド湾にあるウエルチ・ポイントで実施された。このキャンプを Camp Comfort と呼んでいた。また男子のみならず女子も参加した。
- 3) 1866年からは、Lake Waramaug で Gunnery Camp として1879年まで実施され、その後は学期の変更によって行われなくなった。
- 4) F. W. Gunn は、熱心な教育者であり、奴隷制度廃止論者でもあり、アウトドアマンであった。
- 5) キャンプ実施の動機は、推測に止まるが、南北戦争の間接的影響はあるものの、従来まで実施してきたオーバーナイト・ハイキングを大規模に海で実施したいという願望を達成させることにあった。

本検証において、ガナリー・キャンプの事実を、従来よりも、より鮮明に把握することができた。また実地踏査によって、得難い資料と証言を得たことは、これからの研究に、大いに役立つものと思われる。

なお F. W. Gunn の人となり及びキャンプの詳細については、更に究明するところも多い。それらを今後の課題としたい。

## 注

- 1) 英語では、Gunnery である。したがって日本字で表記する場合は、ガナリーかガネリーとなってしまう。発音はナとネの中間音であろう。ここではガナリーと表記することにした。
- 2) 最初の組織キャンプであるかどうかは、菊地他<sup>2)</sup>及び星野<sup>3)</sup>や Ford<sup>7)</sup> が Joseph Cogswell が1823年から野外教育を行った事実に言及している。また Eells も<sup>6)</sup> 最初のキャンプかどうかというより、そのインパクトが重要であるとの指摘をしている。本

研究も、この論議には焦点をおいていない。

- 3) American Camping Association では、キャンプを次のように定義づけをしている。

A sustained experience which provides a creative, recreational and educational opportunity in group living in the outdoors. It utilizes trained leadership and the resources of the natural surroundings to contribute to each camper's mental hysical, social, and spiritual growth. <sup>1)</sup>

- 4) 検討した文献は、次の通りである。
  - \* 斎藤伸次：キャンピング指導、211—212、医歯薬出版株式会社、1959
  - \* 小西孝彦：組織キャンプ、5—6、朝日新聞大阪厚生文化事業団、1967
  - \* 古閑慶之：キャンプ CAMP—その理論と実際、3、ミネルバ書房、1977
  - \* 岡田俊彦他：野外教育指導叢書（上）、16、日本体育大学、1977
  - \* 垣内芳子：キャンプとその指導、14、不味堂、1977
  - \* 松田稔：ザ・キャンパー—その理論と実際、13、創元社、1978
  - \* 日本キャンプ協会：キャンプ指導のてびき、25—26、日本キャンプ協会、1985
  - \* 江橋慎四郎、今井鎮雄：キャンプの基礎、2—3、232、日本YMCA同盟出版部、1986
  - \* 江橋慎四郎編著：野外教育の理想と実際、30—31、杏林書院、1987
  - \* Irwin, Frank L. : The Theory of Camping, 3, A. S. Barnes & Co., 1950
  - \* Mitchell A. V., Crawford I. B., Roverson B. A. : Camp Counseling, 6, W. B. Saunders Co., 1955
  - \* Reimann, Lewis C. : The Successful Camp, 3—4, The Uiv. of Michigan Press, 1958
  - \* Hammerman, William M. : Fifty Years of Resident Outdoor Education, 7, American Camping Association, 1980
  - \* Ford, Phyllis M. : Principles and Practices of Outdoor/Environmental Education, 20—26, John Willy & Sons, 1981
  - \* Eells, Eleanor P. : History of Organized

- Camping the First 100 Years, 5—7, American Camping Association, 1986
- 5) コネティカット州は、ナツメグ州とも呼ばれる。アメリカ北東部ニューイングランドで、南はロングアイランド湾に面している。総面積5,018平方マイル、人口約330万人である。西部は丘陵地帯で、東部は起伏の多い台地で川も多い。州都はハートフォードである。
- 6) 厳密には、1849年の秋に設立されている。しかしながら学校要覧には、1850年とある。これは秋が新学年の始まりであるので、1850年度の意味と思われる。
- 7) なぜミッチェルの記述が誤っていたのかについては、1936年にギブソン (Gibson, H. W.) が著した「The History of Organized Camping in the United States」に、ガンの娘 (Mrs. John C. Brinsmade) がリーマン (Eugen H. Lehman) に宛てた手紙の内容を、そのまま受け入れたことによるものと推測される。尚この手紙の全文は、フォード (Ford, Phyllis M.) の著作<sup>9)</sup> に記載されている。
- 8) ミルフォード (Milford) は、ニューヘブソン郡に属する町で、人口は約5万人、面積は61平方キロである。ロングアイランド湾に面した昔の面影を残した町並みをつくっている。
- 望、レクリエーション研究、第16号、62—69、1986
- 10) Keewaydin Camps : KEEWAYDIN, 2, Keewaydin Camp 1993
- 11) Mitchel, A. V., Crawford, I. B., Robberson, B. A. Camp Counseling, 6, W. B. Saunders Co., 1955
- 12) The Gunnery : The Gunnery, 1, The Gunnery, 1994
- 13) 前掲書 : 2~8
- 14) The Gunnery : The Master of The Gunnery, 89—93, 1994
- 15) 前掲書 : 98
- 16) 前掲書 : 98
- 17) 前掲書 : 95
- 18) 前掲書 : 98~99

#### 参考文献

- 1) ACA : Standards for Day and Resident Camps, 3, American Camping Association, Inc., 1993
- 2) 江橋慎四郎編著 : 野外教育の理論と実際、30、杏林書院、1987
- 3) Eells, Eleanor P. : History of Organized Camping : The First 100 Years, 5, ACA, 1986
- 4) 前掲書 : 5~6
- 5) 前掲書 : 5
- 6) 前掲書 : 7
- 7) Ford, Phyllis M. : Principles and Practices of Outdoor/Environmental Education, 24—26, John Wiley & Sons, 1981
- 8) 前掲書 : 20—21
- 9) 星野敏男 : アメリカにおける野外教育の歴史と展